別紙2　令和6年度　自己評価書（最終）　国分寺市立第六小学校　校長名　氏原　玲子　令和6年12月　作成

教育目標：　◎仲良く助け合う子　○よく考える子　○体をきたえる子

めざす学校像：・子供たちが主体的に学び、豊かにかかわりあう学校　・教職員が協働し、組織の総合力で教育活動を推進する学校　・保護者、地域から信頼される学校

めざす児童像：・自分も人も大切にし、互いに理解し協力して、豊かに生きる子　・すすんで学び、深く考え、自分の良さを伸ばす子　・健康で安全な生活をおくり、粘り強くやり抜く子

めざす教師像：・自ら学ぶ教師　・教育への情熱と子どもへの愛情あふれる教師　・子ども・保護者・地域に信頼される教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標（中間）	努力指標（最終）	成果指標（中間）	成果指標（最終）	分析コメント	改善策
確かな学力の向上	個別最適な学びと協働的な学びを通して全員が「分かる」「できる」喜びや自信を実感できる教育を目指す。	「主体的・対話的で深い学び」の具現化を行う。	計画的な授業の実施と日常的な授業改善を通し、見通しと振り返りが連動した問題解決型、対話や交流等の協働型の授業を展開する。	4	4	3	3	○努力指標、成果指標共に中間評価から変わりはないが、保護者アンケートを抽出して見ると、肯定的回答が90%以上となり向上した。努力指標も4であり、学校として取り組んでいることが保護者に伝わっていると言える。 △児童アンケートでは80%台と中間と比べてほぼ同じ数値となった。自分の考えや意見を他者に伝えることに関しては、否定的回答が減少しなかったことが課題である。	・教員が発表をしている児童を称賛して価値付けを行い、児童が自分自身で考えや意見を伝えられていると実感できるようにする。 ・教員が適切に評価を行うことで、児童に自信を付けさせる。 ・ペアやグループで意見を伝え合う活動を継続し、発表に対する苦手意識を軽減していく。
		基礎・基本の学力定着と意欲向上につながる学習環境の整備を推進する。	各教科・領域で言語環境（話す・聞く・読む・書く活動）が充実した授業展開の推進、「六小スタンダード」の定着を行うことで、児童の学習理解と意欲の向上につなげる。	4	4	3	4	○保護者アンケートの、言語活動の充実に伴う学力の向上で、肯定的回答が前回の87%から94%と向上した。学校の取組が学校公開や児童の評価を通して保護者に伝わっていると考える。 △一方で、学力調査や東京ベーシックドリル診断テストの結果からの基礎・基本の定着については、課題として校内で共有されているので、さらに改善が必要であると感じる。	・朝学習の時間に柔軟性をもたせ、児童や学級の実態に応じて学習内容を考えていけるようにする。 ・国語や算数の問題を取り扱うことで基礎基本の定着を図る。
豊かな人間性の育成	人権尊重教育を推進し、自己の生き方についての考えを深めるとともに、相互理解や人との関わりを大切にする心を育てる。	道徳の授業および指導の充実、特別活動の充実を通して、豊かな心の育成と人間性を育てる。	教科等と関連させた道徳の授業を通して、児童が自己の生き方を深める学習を展開する。特別活動の充実を通して、相互理解や思いやりの心を育てる。	3	4	2	3	○努力指標、成果指標共に中間評価から向上した。この項目では特に、保護者アンケートの肯定的回答が88%となり、日頃の道徳教育や、特別活動での取り組みが、児童の心の成長につながっていることが考えられる。また今年度、生命の安全教育に取り組んだことも指標の向上につながったと考える。 △保護者アンケートで分からないと回答した保護者が11%いる。道徳の授業公開は年間を通して一度（三学期）と伝わりにくいところもあるので、日頃から情報発信を行いたい。また、教員間でも教科等との関連や指導内容について共有する機会が少ない。	・ふれあい月間の月に2学年ずつコラムを載せ、道徳の授業の様子や児童の発言等を発信する。 ・授業で使用した教材や授業公開の指導案等は、データを共有フォルダに保存し、次年度以降も参考にして活用できるようにする。使いやすい場所に保存する。 ・道徳に関する研修の充実を図る。
		いじめ・不登校対策の充実と徹底を行い、相手の人権を尊重し、豊かな心をもつ児童を育成する。	ふれあい月間、いじめ対策委員会、学校復帰支援会議等を行い、校内で情報を共有することで、全ての事案を組織的に対応する。	4	4	2	3	○昨年度から成果指標に課題があった項目だったが、今回児童アンケート、保護者アンケート共に80%を上回り3となった。日頃の学校の取り組みや、生活指導だよりでの周知の成果が出てきていることが考えられる。 △児童アンケートの、相手の気持ちを考えて行動や発言ができるという項目での否定的回答が13%ある。この項目はいじめ防止の観点からも0%を目指していきたい。	・普段の生活や、道徳の授業で相手の気持ちを考えさせるために、ロールプレイや、具体的な言葉を掲示する。普段から、交流の場を設けて、相手意識をもたせ、多様な考えを認める経験を増やしていく。
健やかな体の育成	体力の向上や健康教育等を通して、心身の健康を大切にする態度を育てる。	体育の授業改善および運動に親しむ環境づくりを推進する。	体育科での運動量の確保と、児童が楽しみながら進んで取り組む授業を計画的に行う。また、各運動旬間の取組を充実させ、運動の日常化を図る。	2	3	2	2	○努力指標が1向上し、教員の意識の向上がみられる。 △児童アンケートの体育の授業時間内の運動に関する項目では、肯定的回答が92%と高かったのに対し、休み時間、放課後に関する質問項目では、児童、保護者共に数値が低く、成果指数が2となった。体育の授業時間内の活動と日頃の運動週間が結びついていないことが考えられる。	・中間評価時に案として出た休み時間の体育館開放を具体化させる。曜日ごとに使用学年を設定し、見守りは該当学年の教員（1名）が担当する。 ・学校経営方針で示されている授業時間内の運動時間を達成するための授業の工夫等の研修を行い実践することで改善を目指す。 ・家庭での運動習慣の定着を目指して、長期休業中に「運動カレンダー」を配布する。
			保健・給食および安全に関する指導を通して、命や体を大切にする態度と、自己管理力を高める。	3	4	3	3	○児童アンケートの安全に関する項目では、中間評価時に引き続き95%と高い数値で、日頃の指導が児童の意識を高めていると考えられる。 △児童の食育に関するアンケートの項目で、否定的回答が19%と多かった。特に高学年で否定的回答が多くなる傾向にある。。	・給食や保健、環境美化委員会活動などで、自分事として捉えさせるように、好き嫌いせず給食を食べることの大切さについて、積極的に発信させる。 ・高学年として自分の健康に目を向け、自己の健康管理につながるような食育（給食指導）が必要である。 ・食育に関する指導計画を再確認し確実に指導を行う。、
開かれた学校づくり	地域に学び貢献する子の育成を目指し、学校・家庭・地域が一体となって学びと育ちを共有する学校をつくる。	地域の「人・自然・もの」から豊かに学び、国分寺学で目指す力を育成する教育活動の充実を図る。	総合的な学習の時間や生活科を元にして、各教科と関連させながら、地域の人や自然、ものと関わりながら学ぶ学習を計画的に行う。	3	4	3	4	○努力指標、成果指標共に4となった。今年度、国分寺学を生活、総合の中に取り入れて学習を進めたことで、教員も児童も地域に出て地域と関わりながら学ぶ機会が増え、保護者にも活動の様子が伝わっていることを感じる。 △全体の指標を見ると向上しているが、児童アンケートを学年単位で見ると否定的回答が多い学年があり、年間指導計画を改善する必要があると考える。	・実際に学習している児童が「国分寺だからこそ」や「地域だからこそ」いう意識が薄いので、学習の中でも教員が地域の材を価値づけるような指導をしていく。 ・関わってくださる方々に児童が感謝の気持ちをもてるような視点も取り入れる。 ・学年間の系統性を意識した指導を行う。 ・今年度の学習内容を各学年振り返り、改善して来年度の年間指導計画（生活、総合）を作成する。 ・担当教員が変わっても実施できるように引き継ぎの情報システムを整える。
		外部人材や保護者ボランティア等の活用を推進し、地域と共に子供を育てる開かれた学校づくりを行う。	ゲストティーチャーやボランティアと連携した授業や行事の充実を図ると共に、様々な方法で情報を発信する。	3	4	3	4	○保護者アンケートの情報発信に関する項目では、肯定的回答が93%と高いことと、教員アンケートの情報発信の頻度が増えていることから、取組の成果が出ている。 △校内での保護者ボランティアの活用が増えていることは成果である。一方、学習内容にもよるが学年での活用頻度はまださ差がある。	・来年度コミュニティスクール化するにあたり、人材の手配やボランティアとの接続をコーディネーターに依頼し、校内でさらに活用しやすくしていく。 ・今年度のゲストティーチャーとボランティアの活用状況（場面）を記録しておき、来年度の担当に引き継ぐ。 ・今年度ブログの掲載頻度がかなり上がったので、来年度も継続していく。 ・保護者ボランティアを積極的に活用し、児童が地域の人と関わる機会を増やしていく。